

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小34〉いわき市立好間第一小学校
〈実施日〉	平成28年度7月6日(水)
〈実践教科等〉	1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他
〈実践内容〉	本時のねらい 放射性物質の存在を知り、放射性物質を体にたくさん取り込まないように、気を付けて生活しようとするができる。
(導入)	1 モニタリングポストについて考える。 学校に設置されているモニタリングポストの写真を提示し、設置されている理由を考えさせることから、放射線についての関心を高める。 2 本時のめあてをとらえる。 放射線って何だろう
(展開)	3 放射線や放射性物質の特徴を知る。 (1) 「放射性物質」「放射能」「放射線」の意味や違いについて (2) 身の回りの放射線について ① 自然界にあるもの(自然放射線) ② 医療・工業・農業などでの利用(人工放射線) (3) 体に受ける放射線の量と健康について ・放射線を受ける量をできるだけ少なくすることが大切
(まとめ)	4 これからの生活の中で放射線についてわかったことをまとめ、気を付けていきたいことを確かめる。 放射線は目に見えなくても、私たちは今も昔も放射線がある中で暮らしている。
〈気をつける例〉	① 放射性物質から離れる。 ② 放射線を受ける時間を短くする。
〈成果〉	○ 言葉でしか聞いたことがなかった「放射線」や「放射性物質」の意味や違いをとらえることができた。特に、放射線は身の回りにもあり、生活にも利用されていることが分かった。 ○ モニタリングポストが放射線量を測定していることを知るきっかけとなった。
〈課題〉	○ 学年の実態に応じて継続的に指導を行っていく必要がある。 ○ 現在、本校の実態として牛乳を飲まない児童や米飯を食べない児童もいるので、「安全である」と言い切ることをしないように配慮したい。
資料作成担当者職(教諭)	氏名(水野明子 水野佳乃) 学校電話番号(36-2202)

